

# 社会人基礎力協議会News



第15号 2024年3月31日発行

## 1 2023年度 社会人基礎力育成グランプリ全国決勝大会開催

グランプリ委員会

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」は、社会人基礎力の育成に関して、大学等での取り組みで大きく成長をとげた学生らの表彰を通じて、効果的な育成の事例を多くの方々へ周知する趣旨で開催しています。2023年度のグランプリも協賛企業の皆様、各大学等関係者の皆様のご協力を得て、日本商工会議所および公益社団法人経済同友会のご後援、オブザーバーに経済産業省を迎えて開催しました。全国から総数22チームがエントリーし、2月に開催した6地区の予選大会を経て、各地区の最優秀賞を受賞した6チームが集い、3月15日に全国決勝大会を開催しました。本年度の大賞は、流通科学大学でした。発表中に機器操作のトラブルがありましたが、落ち着いて最後まで行った発表内容はしっかり伝わり、大賞受賞となりました。

大学等での社会人基礎力の育成は、担当教員のみならず、取り組みにご協力いただく学外の企業・団体様の学生への関わりも非常に重要であると言えます。それを感じさせる発表が多くみらるようになりました。今回、協賛企業/団体賞を受賞した神戸国際大学もそうしたことが評価されたものと思います。

### 開催概要

日時・場所： 2024年3月15日(金) 13:00~18:00 オンライン開催 (WebexミーティングおよびYouTubeライブ配信)  
審査員長： iU情報経営イノベーション専門職大学 教授 久米 信行氏  
審査員： 経済産業省 経済産業政策局 産業人材課 係長 石森 淳美氏  
株式会社ウチダ人材開発センタ 常務取締役 金子 栄司氏  
株式会社日経HR コンテンツ事業本部長 渡辺 茂晃氏 (以上、審査員は50音順)

### 出場チーム・発表テーマ・全国決勝大会結果

地区	学校名	テーマ名	大会結果
北海道	流通科学大学	社会人基礎力の育成・強化を意図した「3つの実学的な経験学習」への取り組み	大賞
東北・関東	大阪経済大学	日光を用いたICTサービス「ぎやざらいと」	準大賞
中部	名古屋産業大学	現状の自分を打破した4つの視点-長期インターンシップの挑戦-	
近畿	神戸国際大学	中小企業の従業員エンゲージメントの向上	準大賞 協賛企業/団体賞
中国・四国	福山大学	DX変更後に学んだ逆算の教え	
九州・沖縄	長崎県立大学	波佐見観光と地域の稼ぐ力の研究	審査員特別賞



- ①社会人基礎力大賞 流通科学大学
- ②社会人基礎力準大賞 大阪経済大学
- ③社会人基礎力準大賞 神戸国際大学  
(発表者の皆様と審査員の皆様でオンライン記念撮影)

【2023年度全国決勝大会視聴希望の皆様へ】  
全国決勝大会動画 [https://biz100.org/gp2023\\_movie](https://biz100.org/gp2023_movie)  
上記からお申しいただくと、動画を閲覧可能です。  
(期間限定 2024年6月30日まで)

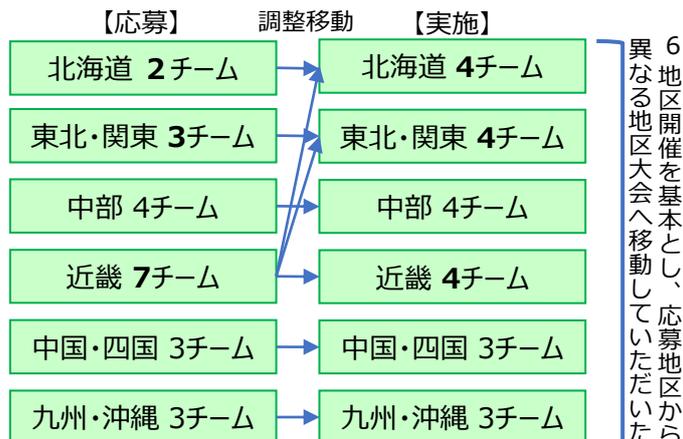
本大会は、2020年度からオンライン開催を採用しています。参加者の移動負担のことを考えると、少なくとも予選大会は、オンラインが良いのではないかと考えています。全国決勝大会は対面開催の復活を目指すものの、まだ解決しなければならない課題もあり、検討の段階です。

**社会人基礎力の「発揮」と「成果」と「成長」をそれぞれ評価する**

高い社会人基礎力を有する人材は、社会的に求められており、大学等には、そうした人材の育成が期待されています。効果的な社会人基礎力の育成方法を見出し、社会に広めていくことが当協会でのグランプリ開催の目的です。これは難問ですが、毎年審査方法を見直し、参加者に成長エピソードを振り返っていただくことで、成長を促進させる方法論の合意が生まれることを期待しています。開催当初より審査事項の基本は変わりませんが、何が成長要因かをより分かりやすく説明していただけるように、審査項目を見なおしています。本年度の大会では、①社会人基礎力の発揮、②前に踏み出す力の成長、③考え抜く力の成長、④チームで働く力の成長、⑤リフレクションの5項目に整理しました。①では、取り組み成果の内容とその活動過程から評価しました。成果を出すためにどのような社会人基礎力を必要としたか、その種類や難度、工夫した事例を述べてもらうことを期待しました。②～④では、それぞれの成長を認識した根拠、成長の要因などを自覚し、それらを説明できているか評価しました。当初の自分と比較し、取り組みを経て成長した実感、成長のきっかけを振り返ることが要点です。⑤は、人生100年時代の社会人基礎力で見直された項目です。大学生等にとってこの解釈は難しいと考え、本大会では学び得たことを今後どのように生かしていくか、未来の目標を述べてもらいました。さらに、プレゼンテーションでこれらを十分に説明できないことも考え、予選大会での質問時間を従来の2倍の10分へ拡大し、審査員からの質問で掘り下げていただきました。プレゼンテーションに期待している審査項目を整理して述べられることは、自らの成長要因を意識することであり、成果が偶然ではなく、自己の成長からくる必然になると考えています。指導する教員にとっても、何が学生の成長を促すのかヒントが得られる貴重な機会と考えています。本年度も大いに参考になる大会になったと評価しています。

**自己の成長要因への振り返りを追求することは大切である一方で、参加チームの減少が続く**

大会の狙いがより明確に深化している一方で、大会に参加していただけるチームが残念ながら減少傾向です。この原因として「就職活動との関係で参加困難な開催時期」「他のビジネスプラン等の大会の機会増」「高くない大会の知名度」などが考えられます。原因を分析して対策を練り、本大会の参加大学を増やすことが重要と考えています。グランプリ委員会では、この課題解決に取り組むとともに、社会人基礎力協議会で毎年開催している年次大会においても、これに関連したテーマを扱っていくことを考えています。



**平準化予選 vs 地区代表予選**

本大会は地区ごとの予選を経て、全国決勝大会を開催していますが、その際、グランプリの決定という競技性から、地区予選大会毎のチーム数の差をなるべく減らす方針を取っています。さらにコロナ禍の影響のなか、参加チームの無かった地区の経験を経て、2021年度から、予選地区で応募が1チームでもあれば、その地区で開催し、応募の多い地区から少ない地区へ移動していただき調整する方法を採用しています。本年度は、左の表のように、近畿地区から3チームに北海道地区と東北関東地区へ移動していただきました。

予選大会の参加数が公平になる一方で、他地区が優勝チームになった場合、“地区代表”という性格が希薄になるという指摘があります。来年度は地区ごとの合同開催をベースにするなどの工夫を検討するとともに、参加チーム数の増加に注力します。



北海道地区



中部地区



中国・四国地区



近畿地区



九州・沖縄地区



東北・関東地区

<地区大会の様子 Webexミーティングに発表者・関係者が集合（数十名規模）>

リカレント委員会では、2か月に一回のペースで定期的にフォーラム&勉強会を開催し、社会人基礎力への理解促進、普及に努めています。12月および2月に開催したフォーラム（オンライン開催）についてご紹介します。今回は企業の人事部と大学の教育センターという「育成」に携わる共通の課題を明確にした内容の講演となりました。現状に満足せず前に踏み出すこと、常に問題意識を持って自分で考え抜くこと、仲間の協力を得てチームで取り組むことを実践した結果得られた数々の実績紹介は、参加者にとっても大いに参考になったと思われます。今後も鋭意工夫し、実りの多いフォーラム&勉強会を実施してまいります。多くの皆様の参加をお待ちしています。

### 2023年12月フォーラム

2023年12月16日（土）10:00～12:00 「千葉興業銀行の人材活用と人材育成にかかる取組のご紹介」

講師：株式会社千葉興行銀行 執行役員 人事部長 井上宏人氏

主旨：仕事と私生活の両立を支援し法定を超える水準の制度を設計するなど、制度面から従業員（正社員、パートタイマー、性別、年代問わず）を支援しています。これらの制度、施策は長期に亘る人材育成を見据えています。従業員は会社の都合では成長しません。楽しく仕事ができる環境でビジネスパーソンとしての成長がパラレルとなったとき会社の業績も向上すると考えます。

### 2024年2月フォーラム

2024年2月17日（土）10:00～12:00 「キャリアの試行錯誤 -学び直しの魅力とリスク-

講師：福山大学大学教育センター講師、ノートプロジェクト代表 前田吉広氏

主旨：オンリーワン（自分らしさ）の追求が「学び直し」の原動力となります。こうありたい自分の姿を模索し続けた過去を振り返り、これまでの人生の棚卸しが必要です。リスクを考えても「全リセット」の学び直しが必要な場合があります。ユニークから憧れのイノベーション人材へと移行するためには、さらなる自分らしい活躍の方法を作り、見つけるための新しい学びに挑戦し続けます。（委員長 渡邊明男）

## 4 鈴鹿市「女性デジタル人材育成支援研修」報告

2024年1月23日、鈴鹿市男女共同参画センター主催の女性デジタル人材支援研修の一環として、協議会代表理事長尾素子が「AI活用が広がる人生100年時代において重要な社会人基礎力」をテーマに研修を行いました。長尾代表理事からは、社会人基礎力の基本的な概念の紹介及び、AI活用が広がる時代とはどのような世界か、その中でどのような力が必要となっていくかについての示唆等、ケーススタディを交えた講演があり、その後小グループに分かれてディスカッションを行いました。

### 研修参加者の様子

参加者は、20代から80代の女性を中心に35名程度でした。後半のグループワークで「AI活用が広がる人生100年時代において必要となる社会人基礎力とは」をテーマに、活発な議論が行われました。グループワーク後の発表では、AI活用が広がってもコミュニケーション力等基本的な社会人基礎力は変わらない、あるいは、AIに振り回されない批判的なものの見方が重要、どんな時代になってもまずは自身の心身の健康を維持すること等様々な意見が出されました。全体として、AIの進化という時代の変化をポジティブに受け取り人生を楽しんでいきたいという姿勢が見られました。世代ごとの認識の違いなども含め、お互いディスカッションを通して新たな視点を得られる等、どの参加者も満足な表情の中、研修が終了しました。

（理事 寺澤ますみ）



出所：鈴鹿市男女共同参画センター

## 5 キャリアカウンセリング協会主催講座への登壇報告

特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会様主催のオンライン講習に「AI時代の働き方と学び直し～人間に求められる役割とは～」と題して、日本マイクロソフト株式会社宮崎翔太様とともに、協議会代表理事長尾素子が講師として登壇しました。生成AIが進化を遂げる中、人はどのような役割を果たせばよいのか、といったテーマのもと、改めて「社会人基礎力」の重要性を話しました。受講者からは、「AIとの共存、そして社会人基礎力の必要性、このような時代だから求められるキャリアコンサルタントの役割を改めて考える良い機会となりました」、「人間がパイロットとして、AIと共存できるような社会人基礎力を身に付ける必要性を実感した」などのフィードバックがあり、「社会人基礎力」について理解を深めていただきました。（代表理事 長尾素子）

講座概要（キャリアカウンセリング協会Webページより）

**「AI時代の働き方と学び直し ～人間に求められる役割とは～」(2023年12月)**

2022年11月にOpenAI社によるChatGPTが公開されたことを契機に生成AIが世の中に急速に広がってきました。本講演ではChatGPTに代表される生成AIの紹介や最新事例に加え、それらが職場に浸透することで人の役割や働き方はどのように変わるのか、また、学び直しを通じて個々人はどのような力を身に付ける必要があるか、人生100年時代における社会人基礎力の重要性などをご紹介します。

2023年12月13日収録。

学習時間  
**1.5時間**



詳しくは  
左記QRコード  
またはURLに  
アクセスください。

出所：[https://www.career-npo.org/learning/lineup/seminar\\_231213.html](https://www.career-npo.org/learning/lineup/seminar_231213.html)

## 2023年度を振り返って

昨年度に引き続きオンライン開催による5回の勉強会（フォーラム）と年次大会（10月）を開催しました。各回とも参加者による活発な意見交換及び質疑応答など内容の濃い勉強会となりました。酒井明夫氏の講演では、社団法人の組織風土を改革することが、人的資本の活性および組織の発展に必要な不可欠であると講演いただきました。佐々木氏は挑戦の歩みを止めずに「好きなこと」を志をもって仕事にし、その情熱が周囲を巻き込み従業員が自発的に動くという実例をご紹介いただきました。八木氏、前田氏はキャリア構築のため仕事を離れて大学院へ入学し、自身のありたい姿を目指して努力を続け活躍の場を広げているリカレント実践者です。井上氏は法令を上回る制度、施策を実施し、ライフワークバランスを徹底した人材育成に取り組んでおられました。いずれの講演者も自身のモチベーション維持にエネルギーを注いでいることが大変印象的でした。

## フォーラム各回の主なテーマと講演者

- 第1回 「JAFの組織風土改革と人的資本主義」酒井明夫氏（一般社団法人日本自動車連盟理事）  
 第2回 「好きを志事に！～自走する組織経営のススメ～」佐々木裕一氏（有限会社ジェットストローク代表取締役）  
 第3回 「自分という人材を使って何を成し遂げるべきか～実践！ドロッカーマネジメント」  
 八木澤智正氏（ドロッカー学会理事・事務局長、協和キリン株式会社戦略本部事業戦略オフィスマネジャー）  
 第4回 「千葉興業銀行の人材活用と人材育成にかかる取組のご紹介」  
 井上宏人氏（株式会社千葉興行銀行執行役員人事部長）  
 第5回 「キャリアの試行錯誤－学び直しの魅力とリスク－」前田吉広氏（福山大学大学教育センター講師、ノートプロジェクト代表）

## 2024年度に向けて

本年度は企業の経営層による課題解決の取組み、およびリカレント実践者による新たなキャリア展開という講義内容でした。引き続き政府が取り組む「人的資本の育成」が急務であることは想像に難しくありません。諸外国と比べて「学ぶこと」が少ない日本人の意識をどのように変えていくか、これは個々人の課題ばかりではなく企業の文化を変えることが課題となります。リカレント委員会は、企業・団体組織が従業員に投資し、大切に育てること、また個人も学びを継続的に実践していくことが重要であると考えております。2024年度は、企業が組織として従業員へのリスクリング等の「人的資本投資」をどのように行っているかや、経営者が自ら社会人基礎力を発揮する実践活動などの事例をご紹介してまいります。

## 7 2023年度 研究委員会活動報告

2017年に論文で紹介された、AI技術のChatGPT（チャットGPT）は瞬間に私たちの生活に浸透してきました。学校では授業への有効活用の勉強会が盛んです。また、業務改善にも大いに活用できることもあり、私たちはこの新しいデジタルツールを使いこなす必要があるといえます。そして、情報倫理、データ倫理と新しい倫理観が必要になってきます。社会人基礎の新しい視点も研究活動の1つとなってきたことは確かです。そのような中、2023年度は「第1回社会人基礎力高校生グランプリ大会」を2024年3月8日にオンラインで開催できました。2022年から開始された探究活動はあらゆる場面で社会人基礎力の育成へつながっているようです。

## 社会人基礎力学修交流研究会

社会人基礎力学修交流研究会の議論のテーマは、「学び続けるための社会人基礎力」です。今年は、特に高校生や高校現場の学びに関する勉強会を盛んに実施できました。1月の研究会では、八潮南高校の関根先生から高校生株式会社の授業への取組で、アントレプレナーシップ教育において社会人基礎力の12項目を取り入れて一連の指導に活かしているとの発表があり、2024年度は授業に取り入れていきたいと具体的な授業案へ進めるとのことでした。

3月にオンラインで実施された「社会人基礎力高校生グランプリ大会」では探究学習を通じて社会人基礎力の学びへの発表が中心でした。今後の展開が期待されます。

## 機関誌の取組みについて

2023年度の機関誌『社会人基礎力研究』は2024年3月に第5号を発行することができました。論文4本に加え、今年度は、10周年記念誌として多くの原稿を掲載でき、それぞれの立場から見た社会人基礎力の取組やご意見を掲載できたことは大きな喜びでした。（委員長 栗田るみ子）



<2024年3月8日 第1回社会人基礎力高校生グランプリ大会>

## 編集後記



## ニュースレターへのご意見・ご要望募集

2023年度 社会人基礎力育成グランプリ大会へのご協力ありがとうございました。次年度以降も、社会人基礎力強化の促進に寄与するべく、活動の活性化に向けて改善を図ります。このNewsでは大学や企業における社会人基礎力強化に役立つ情報を取り上げていきます。会員の皆様からの事例情報を随時募集しております。記事へのご意見、取り上げて欲しいテーマのご要望などもお待ちしております。左記QRコードの協議会HP「お問合せ」フォーム、または、下記事務局メールへお気軽にご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。（担当：研究委員会副委員長 人材開発コンサルタント 山崎 紅）